

# Heartful Day

北条高校人権委員会  
令和元年11月20日  
No.135

## I have a dream today!

黒人差別の歴史は古く、黒人は奴隷として扱われ、人間としてではなく労働力として見られていた。1862年に米国のリンカーン大統領は、黒人への差別をなくすために、南北戦争中に**奴隷解放宣言**を出しました。

1963年8月28日、キング牧師ことマーティン・ルーサー・キング・ジュニア（1964年ノーベル平和賞受賞）が、人種平等と差別の撤廃をワシントンD.C.で呼びかけたワシントン大行進（20万人以上の人々が参加）での17分にわたるスピーチの中で、特に有名な部分を紹介します。



今日、明日、仮に困難が待ち受けていようとも私には夢がある。それはアメリカン・ドリームに深く根ざした、ひとつの夢です。

私には夢がある。「万人は生まれながらにして平等である。これが自明の理であることをここに保証する」、この国家の基本理念を真の意味によって実現する日が来るという夢が。

私には夢がある。いつか、ジョージアの赤土の丘に元奴隷の息子たちと元奴隷所有者の息子たちが一緒に座り、友愛のテーブルを囲む日が来るという夢が。

私には夢がある。いつか、あの差別の熱にうだるミシシッピ州さえもが自由と正義のオアシスに変わる日が来るという夢が。

私には夢がある。いつか、私の子どもたち4人が肌の色でなく中身で判断される、そんな国に住む日が必ずくる。

I have a dream today!

キング牧師がこの演説をするきっかけとなったのは、「モンゴメリー・バス・ボイコット事件」です。1955年12月1日、アメリカのモンゴメリー、アラバマ州で黒人らによるバスのボイコットが起きました。当時の市バスの席は、黒人用と白人用に分けられており、白人用の席がいっぱいになると、黒人らは席を譲らなくてはなりませんでした。その日、黒人女性のローザ・パークスは白人専用の席に座り、白人が来ても席を譲ろうとしませんでした。バスの運転手は彼女に席を譲ることを命じたが、抵抗したために警察を呼ばれ、逮捕されてしまいました。

これをきっかけに、黒人たちはキング牧師を中心に人種差別撤廃のために立ち上がりました。彼らは、ラッシュアワー時でも決してバスに乗らず、バス会社の売上は悪くなる一方でした。バス・ボイコット闘争に約5万の黒人市民が参加し、翌年の1956年に勝利を収めました。

### 【1950年代のアメリカ】

米国のリンカーン大統領による奴隷解放宣言以降も、奴隷制度の名残が根強い南部では、黒人は特に厳しく隔離され、バスなどの交通機関の座席を始め、劇場、公立学校、レストラン、ホテル、公衆トイレ、公園、水飲み場、救急車も黒人用と白人用に分けられ、黒人は公共図書館に入れず、黒人に対する暴力やテロも横行していました。

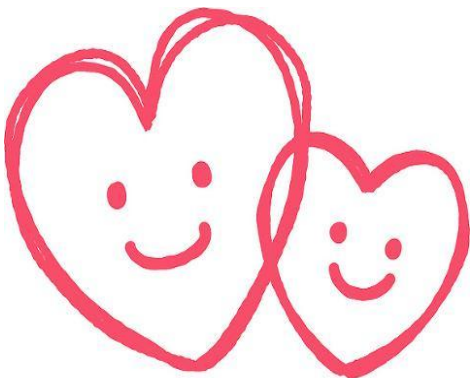


キング牧師が演説の中で民衆に訴えたことは、人種差別の撤廃でした。差別を受ける黒人だけでなく、集会の参加者の4分の1を占める白人たちを奮起させるためには、黒人による白人への怒りを全面に出しても何の解決にもなりませんでした。そこでキング牧師は、黒人の白人に対する怒りではなく、人種の壁を越えてお互いに相手の声に耳を傾け、相手の立場に立って相手の文化や考え方を理解し合うという、具体的で誰にとっても平等でわかりやすい目標を民衆に訴えました。

また、キング牧師は、この演説の中で「現在苦しんでいる自分自身」ではなく、「未来の子どもたち」に焦点をあてていました。つまり彼の夢が実現された場合、その恩恵を受けるのはキング牧師自身ではなく、未来の子どもたちであるということです。未来の子どもたちのために、共に立ち上がり、共に闘い、夢を実現させようと、今を生きる世代の人々に呼び掛けたのでした。

黒人が白人社会に仲間入りすることを目指すのではなく、黒人が白人化することを夢とするものでもありませんでした。また、黒人であることが否定されるのではなく、黒人であることを隠さなければならないのでもなく、平等な権利を持った一人の独立したアメリカ合衆国の市民として黒人であり続け、個人の内面が尊重される社会を夢見ているのです。

民族差別、性差別、LGBTへの差別、障がい者差別、病気差別、人種差別、部落差別、職業差別などの問題がまだ残っている日本においても、キング牧師の理念は通じるものがあると思います。異なる文化・価値観を持つ人たちの多様性を理解・尊重し、人種や民族、性別や世代を越えてすべての人びとと連帯することで、差別のない平等な社会を築き上げることができると思います。



次回の放送は、12月11日(水)の予定です。お楽しみに…